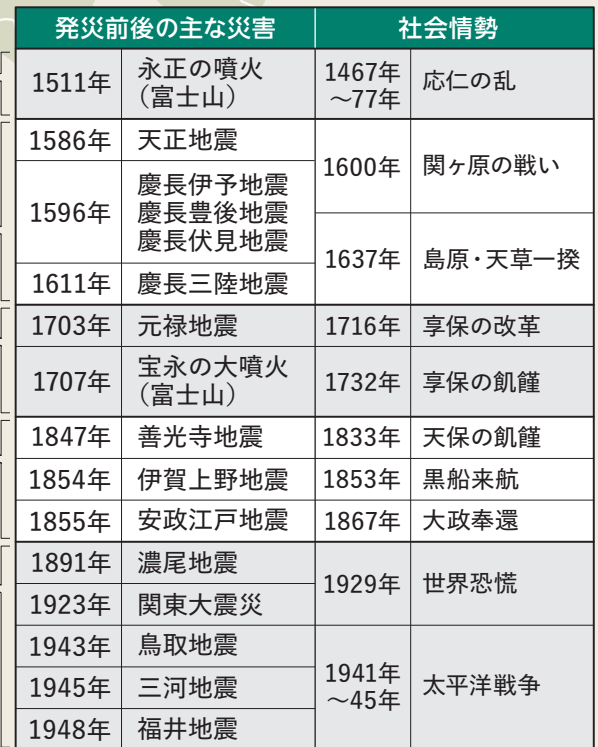


あいち・なごや強靱化共創センター

過去を知り、将来起こりうる災害を想像し、災害に備えましょう。



昭和東南海地震、三河地震から80年…過去に学び未来に備えましょう

愛知県の被害

愛知県では438名の死者が出ており、この地震で最も深刻な被害を被った。軟弱な地盤、耐震性能が著しく劣る建物、避難路の確保が不十分といった3つの悪条件が重なった場所で被害が発生した。

東南海地震 (1944.12.7)

静岡県の被害

静岡市では295名の死者が出ており、数か所で震度7に相当する揺れがあった。大きな揺れがあったのは、袋井市・磐田市の太田川、菊川市・掛川市の菊川の中下流域の軟弱地盤が中心である。

名古屋市南区の被害 最大震度6の揺れ

埋立地にあったレンガ造りの三菱重工・道徳工場が倒壊。64名が犠牲となった。



港防災センターより提供

静岡市の被害 最大震度6の揺れ

太田川・菊川の中下流域について被害が大きかった旧清水市の巴川下流域では、上一丁目(被害率61.9%)の周辺と松井町・幸町(被害率58%及び62.8%)の周辺2箇所の被害率が高く、局所的な被害分布となった。

半田市の被害 最大震度6の揺れ

阿久比川河口の埋立地である山方新田に立地していたレンガ造りの中島飛行機製作所・山方工場が倒壊。153名が犠牲となった。



半田市役所より提供

袋井市の被害 最大震度7の揺れ

今井村において、総戸数336戸中322戸(全壊率95.8%)という激甚な被害が発生している。



出典:「袋井市防災史」平成22年12月発行 袋井市役所

豊橋市の慰霊碑

学徒動員として中島飛行機製作所・山方工場に派遣された豊橋高等女学校と愛知実修高等女学校の犠牲者を悼む「観音像」がある。



出典:愛知県「歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト」より

三重県の被害

三重県では406名の死者が出ている。地震動が強かった市町村は少なく、ほとんどの被害は津波によるものと結論されている。尾鷲町(現尾鷲市)においては8~10mの津波が襲来了。

四日市市の被害 最大震度6の揺れ

埋立地の工場で生産設備への被害が発生しており、煙突の倒壊や液状化による地盤沈下、タンクのパルプ破損による硫酸流出事故などが発生した。



出典:「四日市市制80周年記念 目でみる郷土史四日市のあゆみ」昭和53年6月発行 四日市市役所

尾鷲市の被害 最大震度5の揺れ

九鬼村において、石油タンクが海に流れ出し、津波により石油タンクが流された世界最初の例となった。(二木島(現伊勢市)においても同様に流出した)



出典:みえ防災・減災アーカイブ「昭和19年 東南海地震による被災写真(尾鷲市)」より

深溝断層近辺での被害

三河地震では現在の蒲州市形原町から幸田町深溝を経て、西尾市志籠谷町に至る18kmの深溝断層が地表面にあらわれた。この地表に現れた断層を境にして被害の様相が異なる。上盤側(断層の西側)ではほとんどすべての家屋が倒壊しているのに対し、下盤側(断層の東側)では屋根瓦も落ちないという場所が見られた。



撮影:東京大学名誉教授 津屋 弘達氏

三河地震 (1945.1.13)

安城市の被害

桜井村藤井集落では、117戸中107戸が全壊し、全人口611人中77名が死亡、97名が重傷を負うという大きな人的被害が発生した。



碧南市教育委員会より提供

幸田町の被害

幸田町深溝地区では、死者33名、人家の全壊40戸であった。被害は断層上盤側に集中しており、全壊家屋40戸中38戸が上盤側であった。

蒲州市の被害

形原町金平集落においては、断層の上盤側のほとんどすべての家屋が倒壊している。下盤側では、倒壊した家屋は1件もない。



蒲州市役所より提供

被害概要: 内閣府防災「報告書(1944東南海地震 1945三河地震)」及び名古屋大学減災連携研究センター「昭和19年 東南海地震」を基に作成
※写真は被害のあった市町村における当時の様子です。